

七夕

令和2年7月第1週放送

七月七日は七夕、星祭ともいいます。子供のころは、七夕に竹を飾り良い天気になるのを心待ちにしていたのですが、七夕は梅雨の時期であることが多いので残念ながら、夜に天の川を見た記憶がある方は少ないかもしれません。しかし、地上は雨でも、雲の上には満天の星空が広がっています。

地方によっては、梅雨の明けた一ヶ月遅れの八月七日の七夕もあります。これは旧暦で行うからです。この頃になると雨も降ることは少なくなり立秋が八月七日ですので、俳句などを使う歳時記によると七夕とは秋の季語になるようです。

七夕というと織姫と彦星の物語を思い浮かべますが、同じように良く知られているのは、童謡の「たなばたさま」ではないでしょうか。この時期に聞くことが多い唱歌です。笹の葉や、軒端（のきば）、砂子（すなご）という金粉や銀粉、五色ごしきの短冊、など懐かしい言葉が出てきます。

この中の特に五色の短冊については、緑・黄・赤・白・紫の五色の紙に願い事を書いて、七夕の竹に吊るされた事のある方も多いのではないのでしょうか。

五色は中国の五行思想という自然哲学から来たという考え方があり、火・水・木・金・土の五つの元素を当てはめているといわれています。

また五色には、仏教も影響を受けています。仏の旗ぶつぎと書いて仏旗と呼ばれる旗があります。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

お寺に五色の旗が掲げられているのをご覧になったことがあるのではないのでしょうか。左から順番に横に五色が並び、そして右端が上から順に縦に五色が並んでいる一枚の旗です。

また七月や八月に行われることの多い供養に、施食会（せじきえ）がありますが、この法要で使われる仏様のお名前を書いた旗に五色が使われています。上から緑・黄・赤・白・紫の順番に染められた旗が五枚あり、そこに五人の如来である仏様のお名前を書いて施食会（せじきえ）のご供養に使われるのです。

この五色、五つの色はお釈迦様の身体を表しているとされ、その徳を頂くものです。七夕はお盆の行事とも関係があるのではないかと、という説もあるようです。

今年は、新型コロナウイルスの影響で各地で七夕のお祭りやお盆の行事も中止や縮小を余儀なくされています。ご先祖様から続く一人一人の大切な命です。このような時だからこそ、ご先祖様への感謝と受け継いだ命の尊さを鑑み、すべての事柄に思いやりの気持ちを持つことを、より一層心に誓って過ごしたいものです。

— 終 —